

2017年9月1日

無人航空機設計基準の JIS 規格化について

(一社) 日本産業用無人航空機工業会

1. 背景

(1) 航空分野の JIS 規格の現状

現在、航空分野（規格分類 W）の規格は、航空用語規格 7 本、航空標識の色を規定した 1 本の計 8 本しかなく、無人航空機の規格をつくることは画期的なことである。

(2) JIS 規格化への提案

日本では、無人ヘリコプタの歴史は 30 年近いものがあり、日本独自の安全基準が整備されている。この基準をもとにして、JIS 規格化することにより、日本の無人航空機産業の品質の向上と発展が見込まれる。さらに、将来的に、ISO の国際規格に提案、採用されれば、無人航空機分野で日本が世界をリードすることができる。

2. 構築する規格体系（案）

日本産業用無人航空機工業会が規定した「無人航空機安全基準」をもとにして、無人航空機に関する以下の 2 つの JIS 規格化をおこなう。

(1) 規格 1：「無人航空機用語」無人航空機用語を定義したもの

(2) 規格 2：「無人航空機設計基準」無人航空機設計基準に関するもの

3. 進め方

(1) JIS 原案作成応募

日本産業用無人航空機工業会が日本規格協会の公募制度による JIS 原案作成に応募をおこなう。

(2) JIS 原案作成委員会

日本産業用無人航空機工業会の ISO 委員会のメンバーを中心に、国交省航空局殿および経産省製造産業局殿の担当者にも参加いただき委員会を構成する。

(3) スケジュール案

規格	平成 29 年	平成 30 年		平成 31 年
	12 月	8 月	11 月	7 月
無人航空機用語	△ 公募	← 委員会での検討 →		△ JIS 原案提出
無人航空機設計基準		△ 公募	← 委員会での検討 →	△ JIS 原案提出

目視外及び第三者上空等での飛行に関する検討会の H29 年度検討結果の反映

